



▲“里山 BONSAI”が出来ました。かわいい！

みどりの 女神が行く！

ミス日本みどりの女神
いどがわ ももか
井戸川 百花



里山保全の大切さに触れた 「里山 BONSAI」

7月9日、2016みどりの女神の飯塚帆南さんと「里山 BONSAI」作りを体験して参りました。ナンテンの苗木のおしゃれな盆栽に仕上がりました。

「里山 BONSAI」とは、熱海の森で育てた苗木で全国何処にいても自ら盆栽作りが出来るといふもので、都市生活にも小さな里山を再現し身近に感じてもらうという URBAN SEED BANK様の取り組みです。勿論、自分好みに剪定仕立てることも出来ます。

里山 BONSAIは、熱海の森の種子を育てて作られていると知り、わくわくしながら熱海の森の現状を視察してまいりました。

そこは人の手がほとんど加えられておらず、山道の歩みにくさと倒木だらけに驚きながら慎重に分け入っていきましました。鳥のさえずりが全く聞こえず、まるで生を感じない山のような感覚に襲われ、怖ささえ覚えました。聞けば熱海は林業が衰退して久しいそうです。荒れた里山を放置しておくと、土の中に眠る在来種の種も芽吹かないほど暗い里山へと化してしまう現状に衝撃を受けました。

そして更に登っていった先には木を伐採し、日差しが届く明るい空間があ

り、先程とは打って変わって苗木が元気に育っていました。里山 BONSAIにはその苗木が使われているのです。そしてそこで採取された苗木は神奈川県進和学園（障害者支援施設）の方々によって、丹精込めて育てられています。ビニールハウスの中で沢山の種類の苗木が健康に育っていました。

このように里山を保全しようと行動を起こすことで、熱海の森を支えることに繋がりが、都会で緑を楽しむ方法を生み出し、障害を持つ方々への雇用も生まれまします。積極的に森林、里山を再生させようとする団体が増え、日本のどこにいても健康な緑が感じられる社会になればと思います。

市全体が協力して山の健康を守る

三重県伊賀市未来の山づくり協議会設立総会」に出席

また「三重県伊賀市未来の山づくり協議会設立総会」に出席して参りました。

多くの山では保全しようと手を挙げる人が少ないという問題があります。しかし三重県伊賀市では森林組合や自治体が新しい山づくりの実現の為に手を取り合って協力されていました。伊賀市の特質を活かした産業や長期的な視点での山づくりを具体化し、更には市民のために



▲フェイスシールドで感染症予防策は万全！



▲明るくなった森は、とても気持ち良かったです

山の恵みを感じられる環境づくりを目指すことや、人材育成にも可能性を広げようとされていました。地域ならではの近い距離感や良い山を作り上げようと市全体が一丸となって団結している姿に心を動かされました。一人一人が現状を理解し、全員が連携して協力しながら解決策を編み出し行動を起こすことが今の日本の山を健康に生き返らせる方法なのではないかと感じました。